

あびこ型「地産地消」推進協議会

会報 第52号 2020年3月15日発行

～消費生活展のパネルより～



★本会報はカラーでご覧になれます。

当協議会ホームページの <https://abiko-chisan.com/newsletter>

またはQRコードから、会報「第52号」をお読みください。



1. 情報交換会

援農ボランティア部会 井出 史郎

2019年は年初からの九州、北海道での地震、夏の猛暑そして甚大な被害を残した台風が2つも関東地方を直撃しました。私たちの住む我孫子市も例外ではなく、台風19号の被害では、北新田地区に大きな被害を目の当たりにすることになりました。明らかに気候の変化を意識させられる年でした。

援農ボランティア活動も今年で16年目を迎えました。ここまで続けてこられたことは、皆様の多大なご協力、叱咤激励が無ければと思っております。

毎年秋に行っている「情報交換会」ことは少し趣向をかえて、BBQをやってみようということになり、我孫子駅北口にあるマンション「グランレジデンス」にお住いの援ボメンバーの協力をいただき、11月30日(土)に今年の情報交換会を実施することが出来ました。会場の予約、当日の準備及び買出し等、グランレジデンスにお住いのメンバー(宮園さん、二階堂さん、佐藤さん、森本さん、谷口さん)に多くのご協力をいただきました。ありがとうございました。そして、受入れ農家の原田さん、荒井さんから美味しいトマトの差し入れも頂き、皆さんで美味しく頂きました。ありがとうございました。

今回の情報交換会は、援農ボランティアメンバー・受入れ農家・協議会メンバー・農政課含め約20名の参加をいただき、おいしいお肉や魚、お酒を楽しみました。食事も一段落したところで、現在、これからの援農ボランティアについて意見交換をおこないました。以下にその時頂いた意見・提案をまとめました。

- 全ての年代の方が活動できるような体制を希望
- AMの活動時間を30分短くすることが出来ないか
- 実費弁償を改定
- 援農に参加する人数をふやしたい。
- 援農活動を是非昔の様に活発にしたい
- 農政課からの実費弁償への補助が可能なのか
- 色々な提案を是非先ず実行してほしい、その結果をもって検討してほしい
- 実行委員会、運営委員会での話し合い内容を援ボメンバーで共有してほしい、議論がどのように進んでいるのか、その他の部会もどのような活動をしているのか知ってほしい
- 執行部がしっかりしてほしい
- 畑の片付けの時に援ボの協力が助かる。
- 我孫子市内の学校でボランティア活動を行っている。これと連携できないか。
- 援ボ活動の実施日を見直し
- 年会費の撤廃
- 援農ボランティア名簿で住所欄の番地を削除する。(個人情報のため)



大変貴重な意見を共有できる場所となりました。ご参加いただきました皆様、ありがとうございます。そして今後ともよろしく願いいたします。実行委員会として直ちに実行できるものは行い、協議が必要なものについては早速実行委員会に取り上げ議論は開始しています。出来る限り皆様が楽しく活動に参加し、援農ボランティア活動が参加者、農家、そして我孫子に有意義なものになるようにしてゆきたいと思っております。

2. 令和元年年末の集い(忘年会)

総務部会 小松信彦

恒例の年末の集い(忘年会)は12月21日(土)にけやきプラザにおいて開催し、39名の皆さまにご参加いただきました。星野市長にもご多忙の中ご出席いただき、当協議会の活動が農産物直売所「あびこん」の支援の一助となっていることや来年は我孫子市が市制50年を迎える年であり益々の活動を期待するとの激励を頂きました。会場では今年も我孫子産の野菜を中心とした料理をみんなの広場「風」の皆さまで準備いただき大変おいしくいただきました。



歓談の間では、今年1年間の出来事をスライドによりご覧いただきました。5月の第16回総会では、新木小学校の杉本先生に当時の5年生(現6年生)が我孫子の農業について自主的に研究しトマトを栽培するなどの取り組みについて講演をいただきました。7月にはあびこんの主催で「ちびっこ流しそうめん体験」を初めて実施し、大好評でした。ちなみに素材の竹は齊藤会長が参加されている竹の会からの寄贈いただきました。また、「採って食べよう夏野菜」を7月に高木農園で実施し、枝豆やジャガイモを収穫し、茹でたての枝豆とトウモロコシを食べ、カレーライスもおかわりするほどおなか一杯のイベントでした。



ご参加の皆さまを紹介する場面では、各部会、農家さん、農政課の皆さまの紹介・挨拶などに加えて、ご参加いただいた全員の挨拶をいただきました。また、会員の宮内さんの楽器演奏があり大いに盛り上がり楽しい夕べとなりました。



3. 法人会員紹介(川村学園女子大学)

川村学園女子大学 事務部 熊谷憲輝



大正時代に「感謝の心」を基盤とした「自覚ある女性」の育成と「社会への奉仕」を建学の理念として誕生した川村学園。以来、高等教育において、川村学園女子大学は3学部に大学院を加えた、文科系総合大学へと発展してきました。

女性の力が社会でますます必要とされる現代において、大きな力となるのが「教養」そして「資格」です。激しく変化する社会を柔軟に乗り越えるための「教養」と社会に貢献するための「資格」。

川村学園女子大学は、この「教養教育」と「資格教育」を二本の柱とした教育を展開しています。時代という波をしなやかに生き抜く女性たちのために、誠心誠意、全力を尽くしています。

我孫子キャンパスにおいて、あびこ型「地産地消」推進協議会の今村先生を迎え、平成27年度より学園所有の農地を活用した授業を実施しています。授業名は「農と地産地消」と「農と暮らし」です。前者は栄養士を育成する生活文化学科の選択必修科目で、後者は我孫子キャンパスの全学生が履修できる共通教育科目です。

これらの授業は、実際に作物を育てる無農薬野菜の栽培を体験することにより、環境保全型農業の重要性を知り、食に対する感性を高めること、また地域の農業、地産地消活動を知り、食を通じた地域との連携を考えることを目的としています。そして授業の最後には収穫した作物を使い調理実習を行います。このように授業を通じて農業や環境保全に対する「教養」を身に付け、また栄養士としての「資格」を取得するにあたって豊かな感性を育てています。



今後もあびこ型「地産地消」推進協議会と今村先生の協力を得て、このような特徴的な授業を続けていきたいと思っています。



川村学園女子大学

URL : <https://www.kgwu.ac.jp>

学生数：約 1200 名

文学部：国際英語学科※、史学科、心理学科、日本文化学科

教育学部：幼児教育学科、児童教育学科

生活創造学部：生活文化学科、観光文化学科※

我孫子キャンパスと目白キャンパス※の2キャンパスからなる

4. 第38回我孫子市農業まつり

総務部会 小松信彦

我孫子市農業まつりの千葉県知事賞に受入農家の古川鉄夫さんが受賞！！

第38回我孫子市農業まつりが11月16日(土) 水の館直売所前駐車場で開催され、大勢の市民の皆さまが参加されました。各主催者のブースでは、焼きそば、フライドポテトなどの飲食販売は完売し、無料配布のポップコーンも2kgがすべて配布されました。

当協議会では広報部会がクイズとアンケートを実施し参加者に新米2合×70袋をプレゼントしました。また、駐車場整理のボランティアを実施して協力しました。このほか、新木小学校の児童が製作したトマトのジャムの販売や川村学園女子大学生による総菜の販売などが好評のうちに完売し、もっと販売してほしいなど好評でした。

恒例の農産物共進会の審査では、当協議会に登録された農家さんが各賞を受賞されました。①千葉県知事賞 古川鉄夫様(玄米) ②我孫子市植物防疫協会会長賞 阿曾義弘さま(菊) ③当協議会長賞 相馬英里様(野菜巻き寿司) 皆さま本当におめでとうございます。

表彰式終了後の農産物即売会では新鮮野菜の販売が行われ、多くの市民の皆さまが買い求めていました。祭りの終盤では、恒例の紅白餅のふるまいがあり、大人も子供も一生懸命にふるまい餅をキャッチしていました。最後に、今年の苗木無料配布は、レモンの苗木が130本すべて配布され盛り上がりのうちに楽しい一日が終了しました。



5. 第13回ちびっこ餅つき大会

総務部会 小松信彦

「ちびっ子餅つき大会2020」小雪にめげず開催！！

協議会恒例の「ちびっ子餅つき大会2020」はあいにくの小雨と小雪がちらつく中、1月18日(土) 予定どおりに開催しました。13回目となるちびっこ餅つき大会は、天候不順の中での開催となりました。

メインイベントである「ちびっ子餅つき」には寒い中、約140人のちびっ子が子供用の杵(きね)を振り上げ、実行委員の掛け声とともに餅つきを楽しんでいただきました。お餅をついてくれた子供たちにはふるまいの丸餅と会員手作りの動物のおもちがプレゼントされました。また、隣のテントでは温かいお汁粉がふるまわれ親子さんともどもおいしくいただきました。子供ネットワークの皆さんがキッズコーナーでいろいろな動物をバルーンアートで作ってくれました。更には、我孫子市内の絵描きさんによる似顔絵にも大勢の子供さんがすました顔で並んでいました。





2 回目の餅つきには雨の中にも拘わらず星野市長にご参加いただき、ご挨拶に続き、餅つきを力強くついでいただきました。餅つきは予定通り3回実施し、約12Kgのお餅がつきあがりしましたが、昨今の状況から、昨年同様、岡発戸にある滝前神社に奉納いたしました。天候不順のため、開催の問合せ電話も50件を超えました。寒い中、お越しいただいた市民の皆さまには本当にありがとうございました。残念ながら、同時に予定していました「あびこふるさと会」の新春獅子舞・太鼓は中止となりました。

荒天の中、出店いただいたみんなの広場「風」の皆さま、駐車場整理、餅つき行列の整理、お汁粉のふるまい、磯辺焼きと販売、振る舞いもちの配布など実行委員始め会員の皆さま、農家、あびこの皆さま、そして農政課の皆様のご支援、ご協力に感謝します。来年は爽やかな天気にも恵まれて開催できることを祈念しつつ無事終了したことを感謝いたします。

6. 第44回我孫子市消費生活展

広報部会 若王子 範文

我孫子市市制施行50周年記念事業として行われた消費生活展は、「このままでは危ない！ 私たちの暮らし」を全体テーマとして、我孫子市民プラザ（あびこショッピングプラザ3階）において開催されました。参加団体9団体、協力企業2社、ボランティア協力2名1団体その他協力1団体1名と多くの方の協力での開催です。参加団体は全体テーマに沿って各団体のテーマを決めて月に1回の定例打合せを重ねパネル4枚にまとめ参加しました。



実行委員長・青木副市長の挨拶を経て開会され、参加者は750名でした。

主催：我孫子市消費生活展実行委員会、我孫子市

期日：2020年（令和2年）2月1日（土）2日（日）の2日間

時間：午前10時30分～午後4時30分



私たち“あびこ型「地産地消」推進協議会”は団体テーマを「農ある暮らし」として、参加しました。作成された各パネルは①我孫子市内の田んぼへの水②我孫子の農家数と耕地面積の推移③オーガニック・エコ農業④農と出来ることをサブテーマとして作成されています。

自分たちのブースの説明とスタンプラリーの印押しそして1日4回のチラシ配りと忙しい2日間でした。

発行：あびこ型「地産地消」推進協議会 会長 齊藤徳剛

住所：270-1146 我孫子市高野山新田193（「水の館」2F）

（業務日 月・火・木）9：00～17：00

Tel 04-7128-7770 Fax 04-7128-7771

E-mail info@abiko-chisan.com HP <http://abiko-chisan.com/>

（協議会ホームページではカラーでご覧いただけます）

